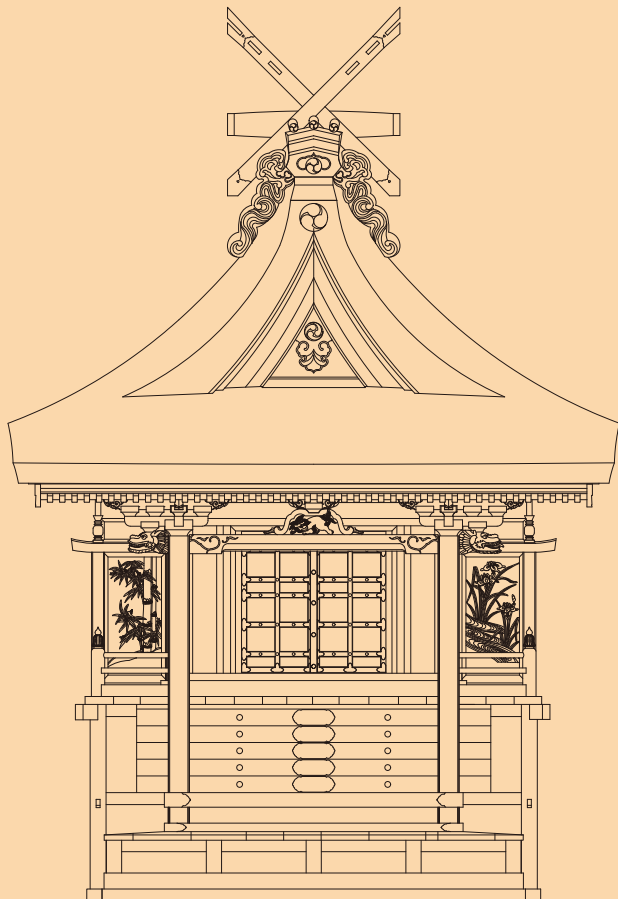




公益財団法人
和歌山県文化財センター一年報

埋蔵文化財発掘調査と文化財建造物保存修理の記録

2022





1 和田岩坪遺跡(上空から)



2 吉原遺跡 方形周溝墓(上空から)



3 鬪雞神社 本殿・上殿



4 金剛峯寺 奥院経蔵 輪蔵

目次

令和4(2022)年度 受託業務一覧 …………… 2

令和4(2022)年度 受託業務所在地図 …………… 3

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援等

和田岩坪遺跡の発掘調査等 ……………	4
且来V遺跡、且来VI遺跡の発掘調査等 ……………	5
吉原遺跡、松原経塚の発掘調査 ……………	6
東郷遺跡の発掘調査 ……………	7
尼寺観音寺跡の出土遺物等整理 ……………	8
入郷遺跡の出土遺物等整理 ……………	8
新堂遺跡の出土遺物等整理 ……………	9
小浦I遺跡、小浦II遺跡の出土遺物等整理 ……………	9
岩橋千塚古墳群の分布調査及び出土遺物等整理支援 ……	10
県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査等支援 ……	10
那智山坊跡の確認調査等支援 ……………	11
那智山坊跡の伐根等工事立会調査支援 ……………	11
土井ノ森城跡の出土遺物等整理支援 ……………	12
慈尊院近世堤防の出土遺物等整理支援 ……………	12
上城遺跡、上城城跡の出土遺物等整理支援 ……………	13
安宅氏城館跡の出土遺物等整理支援 ……………	13
高野町内石造文化財の調査支援 ……………	14
道成寺境内保存活用計画策定の部分支援 ……………	14

文化財建造物の保存修理技術指導

重要文化財 闘雞神社本殿ほか3棟の保存修理 ……	15
重要文化財 増田家住宅表門の保存修理 ……………	16
重要文化財 白岩丹生神社本殿の保存修理 ……………	17
県指定文化財 須賀神社本殿の保存修理 ……………	18
県指定文化財 施無畏寺鎮守社の保存修理 ……………	19
史跡 旧名手宿本陣整備事業名手役所主屋及び離れ・ 蔵復旧整備その3工事 ……………	20
史跡 旧名手宿本陣土塀・井戸屋形 重要文化財南倉の保存修理 ……	21
重要文化財 金剛峯寺奥院経蔵の保存修理 ……………	21
重要文化財 金剛三昧院経蔵の保存修理 ……………	22
重要文化財 普賢院四脚門の保存修理 ……………	22
県指定文化財 常喜院校倉の保存修理 ……………	23
県指定文化財 東田中神社境内社旧竹房神社本殿の保存修理 ……	23
和歌公園観海閣新築工事の実施設計 ……………	24
史跡 熊野参詣道紀伊路史跡等総合活用整備事業技術支援 鈴木屋敷の復元整備 ……………	24
中世行幸啓御泊所跡の保存活用整備 (尊勝院表門の保存修理工事) ……………	25
指定文化財図面作成業務 ……………	25

関連研究・資料紹介

山口斌氏収集の日高郡北部における考古資料について(1) …… 26

普及活動

令和4(2022)年度の普及啓発事業 …………… 28

センター概要

令和4(2022)年度概要 …………… 31

巻頭写真

- 1 和田岩坪遺跡(上空から)
- 2 吉原遺跡 方形周溝墓(上空から)

- 3 闘雞神社 本殿・上殿
- 4 金剛峯寺 奥院経蔵 輪蔵

例言

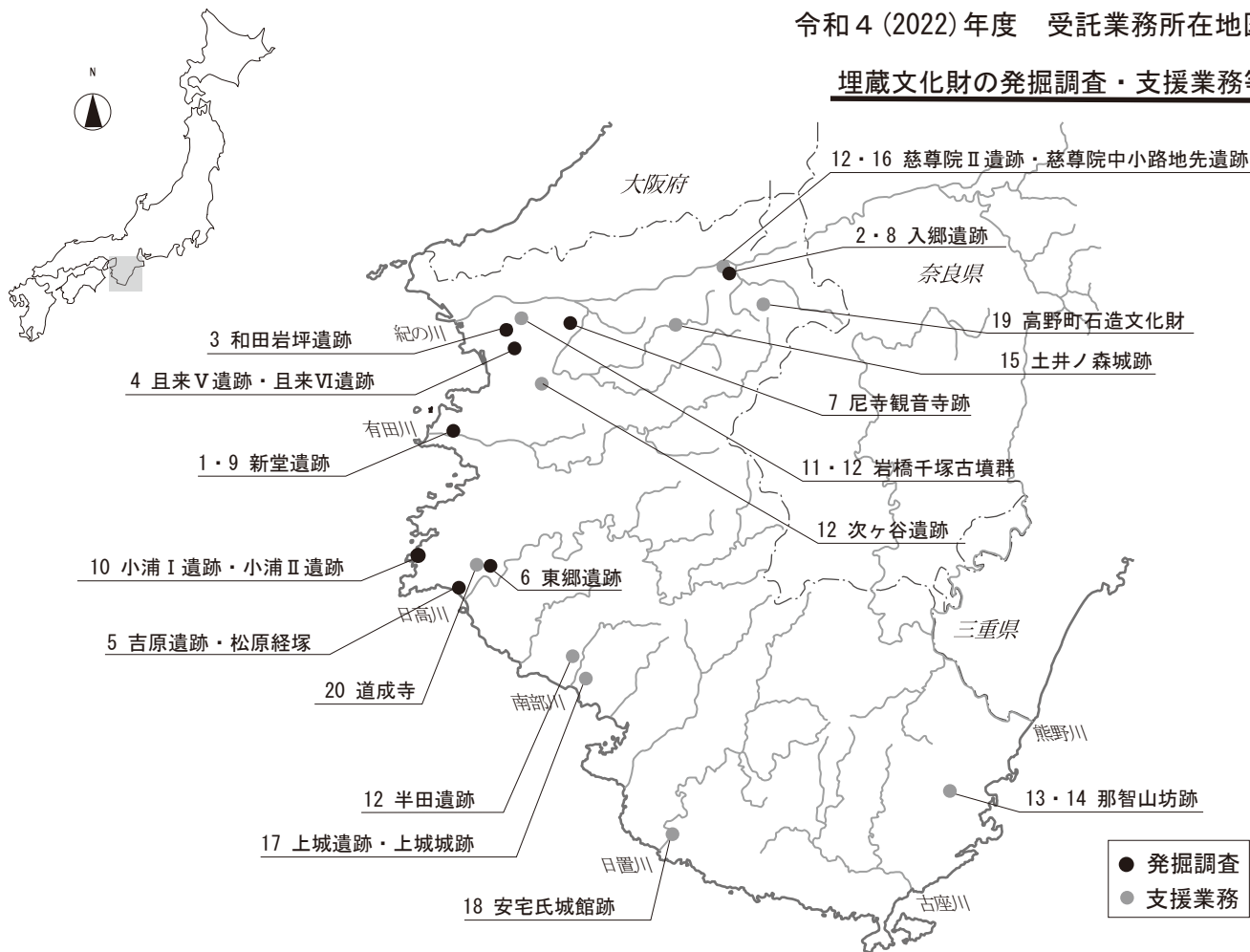
- 1 本書は、公益財団法人和歌山県文化財センターが令和4年度受託業務として行った埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援業務、文化財建造物の保存修理技術指導業務・調査・技術支援、文化財の計画・調査支援及び普及啓発活動の成果をまとめたものである。
- 2 掲載した地図は、和歌山県教育庁生涯学習局文化遺産課が発行する「和歌山県埋蔵文化財包蔵地所在地図」『和歌山県地理情報システム』<https://wakayamaken.geocloud.jp/mp/> 4(和歌山県企画部企画政策局情報政策課)(地図は、国土地理院発行の数値地図)の複製を一部加筆し引用した。
- 3 掲載写真・図面は、基本的に事業の実施に伴い撮影・作成したものであり、出典が異なる場合は個別に記した。また、本文中の所見は、調査・整理事業中のものであり、今後の作業の進展により変更する可能性がある。
- 4 原稿執筆は職員が分担して行い、文末に執筆者名を記した。編集・組版は、川崎雅史・大給友樹が担当した。

令和4(2022)年度 公益財団法人和歌山県文化財センター受託業務一覧

埋蔵文化財の発掘調査・出土遺物等整理・支援等業務					
	受託業務の名称	所在地	契約期間	調査面積	委託機関等
1	一般国道42号有田海南道路建設事業に伴う新堂遺跡発掘調査業務	有田市新堂	2021.11.23～ 2022.09.30	966.3㎡	近畿地方整備局和歌山河川 国道事務所
2	町道156・176号線改良工事に伴う入郷遺跡発掘調査委託業務	伊都郡九度山町入郷	2021.12.23～ 2022.04.28	484.0㎡	九度山町
3	令和4年度和歌山平野農地防災事業 名草排水機場建設工事に伴う和田岩坪遺跡第2次発掘調査委託業務	和歌山市和田	2022.05.16～ 2023.03.31	345.0㎡	近畿農政局和歌山平野農地 防災事務所
4	秋月海南線道路改良事業に伴う目来V遺跡及び目来VI遺跡発掘調査等業務	海南市目来	2022.04.13～ 2023.03.10	36.3㎡	和歌山県
5	柏御坊線交通安全施設等整備事業に伴う吉原遺跡、松原経塚発掘調査業務	日高郡美浜町吉原	2022.08.30～ 2023.04.28	369.6㎡	和歌山県
6	江川小松原線通路緊急対策事業に伴う東郷遺跡発掘調査業務	日高郡日高川町土生	2022.11.11～ 2023.04.28	372.0㎡	和歌山県
7	県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備事業に伴う尼寺観音寺跡出土遺物等整理業務	紀の川市貴志川町尼寺	2022.06.28～ 2023.03.10	-	和歌山県
8	町道156・176号線改良工事に伴う入郷遺跡発掘調査(出土遺物等整理)委託業務	伊都郡九度山町入郷	2022.10.05～ 2023.03.31	-	九度山町
9	一般国道42号有田海南道路建設事業に伴う新堂遺跡発掘調査出土遺物等整理業務	有田市新堂	2022.08.19～ 2023.03.10	-	近畿地方整備局和歌山河川 国道事務所
10	県営中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う小浦I遺跡、小浦II遺跡出土遺物等整理業務	日高郡日高町小浦	2022.06.24～ 2023.03.10	-	和歌山県
11	令和4年度岩橋千塚古墳群追加指定事業に伴う分布調査等支援業務	和歌山市寺内・井辺ほか	2022.04.13～ 2023.03.31	-	和歌山県
12	令和4年度県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査支援業務	和歌山県内	2022.10.29～ 2023.03.31	-	和歌山県
13	行者堂建設に伴う那智山坊跡確認調査支援業務	東牟婁郡那智勝浦町那智山	2022.05.26～ 2022.07.10	-	那智勝浦町
14	行者堂建設に伴う那智山坊跡伐根等工事立会調査支援業務	東牟婁郡那智勝浦町那智山	2022.09.10～ 2022.11.30	-	宗教法人 那智山青岸渡寺
15	土井ノ森城跡出土遺物等整理支援業務	紀の川市中鞆洲	2022.06.14～ 2023.03.31	-	紀の川市
16	令和4年度慈尊院近世堤防総合調査に伴う出土遺物等整理支援業務	伊都郡九度山町九度山・慈尊院	2023.03.01～ 2023.03.31	-	和歌山県
17	上城遺跡、上城城跡出土遺物等整理支援業務	日高郡みなべ町東吉田	2023.01.19～ 2023.02.28	-	みなべ町
18	安宅氏城館跡整理支援業務	西牟婁郡白浜町安宅・矢田・田野・富田	2022.11.18～ 2023.03.31	-	白浜町
19	高野町文化財保存活用地域計画調査(石造文化財調査)支援業務	伊都郡高野町高野山	2023.02.27～ 2023.03.31	-	高野町
20	史跡道成寺境内保存活用計画策定部分支援業務	日高郡日高川町鐘巻	2022.08.17～ 2023.03.24	-	株式会社都市景観設計
文化財建造物の保存修理技術指導業務等					
	受託業務の名称	所在地	実施期間	棟数	委託機関等
A	国宝 金剛峯寺不動堂 保存修理基本設計	伊都郡高野町高野山	2022.12.01～ 2023.03.31	1棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
B	重要文化財 鬮雞神社本殿ほか3棟保存修理技術指導	田辺市東陽	2020.06.08～ 2022.12.31	4棟	宗教法人 鬮雞神社
C	重要文化財 金剛峯寺奥院経蔵 保存修理技術指導	伊都郡高野町高野山	2022.06.01～ 2022.12.31	1棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
D	重要文化財 金剛三昧院経蔵 保存修理技術指導	伊都郡高野町高野山	2022.02.01～ 2022.09.30	1棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
E	重要文化財 普賢院四脚門 保存修理技術指導	伊都郡高野町高野山	2022.04.01～ 2023.03.31	1棟	公益財団法人 高野山文化財保存会
F	重要文化財 増田家住宅表門 保存修理技術指導	岩出市曾屋	2021.11.01～ 2023.03.31	1棟	増田 裕
G	重要文化財 白岩丹生神社本殿 保存修理技術指導	有田郡有田川町小川	2022.11.02～ 2023.10.31	1棟	宗教法人 白岩丹生神社
H	重要文化財 白岩丹生神社本殿 保存修理基本設計	有田郡有田川町小川	2022.05.10～ 2022.09.30	1棟	宗教法人 白岩丹生神社
I	令和4年度重要文化財 濱口家住宅改修基本設計	有田郡広川町広	2023.01.11～ 2023.10.31	-	広川町
J	令和4年度紀伊風土記の丘重要文化財民家等保存修繕設計監理技術指導	和歌山市岩橋	2023.03.04～ 2023.03.31	-	和歌山県教育委員会
K	県指定文化財 須賀神社本殿 保存修理技術指導	日高郡みなべ町西本庄	2021.04.05～ 2023.03.31	3棟	宗教法人 須賀神社
L	県指定文化財 施無畏寺鎮守社 保存修理技術指導	有田郡湯浅町栖原	2022.05.24～ 2023.03.31	1棟	宗教法人 施無畏寺
M	県指定文化財 常喜院校倉 保存修理技術指導	伊都郡高野町高野山	2022.11.07～ 2023.03.31	1棟	宗教法人 常喜院
N	県指定文化財 東田中神社境内社日竹房神社本殿 保存修理技術指導	紀の川市打田	2022.09.01～ 2023.08.31	1棟	宗教法人 東田中神社
O	県指定文化財 志磨神社本殿 保存修理技術指導	和歌山市中之島	2023.02.27～ 2023.03.31	1棟	宗教法人 志磨神社
P	紀の川市指定文化財 鞆洲八幡神社若宮社・高良社 保存修理工事技術支援	紀の川市中鞆洲	2022.07.11～ 2023.03.31	2棟	宗教法人 鞆洲八幡神社
Q	名手役所主屋及び離れ・葎復旧整備その3工事設計監理	紀の川市名手市場	2021.04.13～ 2023.03.31	2棟	紀の川市
R	史跡 旧名手宿本陣土塙・井戸屋形、重要文化財南倉 保存修理工事技術指導	紀の川市名手市場	2022.09.02～ 2023.03.31	3棟	紀の川市
S	史跡 熊野参詣道紀伊路歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業(鈴木屋敷)技術支援	海南市藤白	2022.04.12～ 2023.03.24	1棟	宗教法人 藤白神社
T	丹生都比売神社境内歴史生き生き！史跡等総合活用整備事業における東池石垣修理工事等に関する技術支援	伊都郡かつらぎ町上天野	2022.07.11～ 2023.03.31	-	宗教法人 丹生都比売神社
U	名勝 和歌の浦観海閣整備事業に係る実施設計委託	和歌山市和歌浦中	2022.01.12～ 2023.03.31	1棟	和歌山県教育委員会
V	県指定文化財(史跡) 中世行幸啓御泊所跡保存活用整備事業に係る技術指導	東牟婁郡那智勝浦町那智山	2022.04.01～ 2022.06.30	1棟	宗教法人 那智山青岸渡寺
W	湯浅伝建地区保存修理技術指導等委託	有田郡湯浅町湯浅	2022.04.26～ 2023.03.28	-	湯浅町
X	指定文化財図面作成	和歌山県内	2022.12.23～ 2023.03.31	-	和歌山県教育委員会

令和4(2022)年度 受託業務所在地図

埋蔵文化財の発掘調査・支援業務等



文化財建造物の保存修理技術指導業務等



和田岩坪遺跡の発掘調査等

遺跡の時代：弥生時代後期～鎌倉時代
所在地：和歌山市和田
調査の原因：名草排水機場建設工事
調査期間：2022.05～2022.11
整理期間：2023.02～2023.03
調査コード：22-01・302

はじめに

平成30年度に実施した名草排水機場建設に伴う第1次調査では、弥生時代前期の自然流路や弥生時代後期末から古墳時代前期の自然流路、鎌倉時代の区画溝・土坑などが確認された。今回の調査地は第1次調査の南西側隣接地にあたる。

調査の成果

第1次調査で検出した弥生時代後期末の庄内式併行期から古墳時代後期に埋積した自然流路の延長を確認した。特に流路下層からは弥生時代後期末から古墳時代前期の土器や木製遺物が多量に出土した。木製遺物には杭が多く、一部に鍬などの木製品が含まれるが、大半は自然木と考えられ、押し流されて堆積したと考えられる。流路肩部で護岸に関わる可能性がある杭跡を複数確認した。また、流路側に張り出す地点に石列を検出し、川の水を利用する場を造り出している可能性がある。

自然流路埋没後の鎌倉時代の遺構面では、鋤溝や畦畔などの耕作に関わる遺構を確認した。



和田岩坪遺跡の位置図

出土遺物等整理業務の内容

調査で土器や木製品などの遺物が多量に出土し、整理作業が長期間となる見込みとなったため、整理業務のうち水洗作業を先行して実施した。これ以降の整理業務は次年度に実施予定である。対象となる出土遺物は、遺物収納コンテナ（28ℓ/箱）111箱及びコンテナに収納できない木製品約70点である。

水洗の結果、少量の弥生時代中期の土器片、古墳時代中期から後期の須恵器、鎌倉時代の瓦器などが出土しているが、大半は弥生時代後期末から古墳時代前期の土師器であることがわかった。ミニチュア土器も複数出土している。その他、多量の土錘や数点のマダコ壺が出土している。土錘には有孔土錘・管状土錘がある。脚台式の製塩土器も多く出土している。木製品には農具（鍬・ナスビ形曲柄鍬）、木錘、曲物、木杭などがある。石製品には砥石、石庖丁、サヌカイト片のほか、祭祀遺物の滑石製有孔円板が1点出土している。

遺跡・遺物の評価

今回の調査地は最終埋積が古墳時代後期の自然流路の範囲に当たり、弥生時代後期末から古墳時代前期の土器を多量に含むことから、隣接地に当該期の大規模な集落があったと想定される。製塩土器や土錘の出土から製塩や漁撈を生業とする集落であったと考えられるが、農具も数点出土したことからある程度農耕に従事していた可能性もある。流路は古墳時代後期には埋没するが、中世になってようやく耕作地として利用されるようになる。第1次調査では鎌倉時代の屋敷地関連の遺構が確認されており、流路範囲の外側では集落が営まれ、旧流路上は耕作地として利用している状況が確認できたことになる。（仲原 知之）



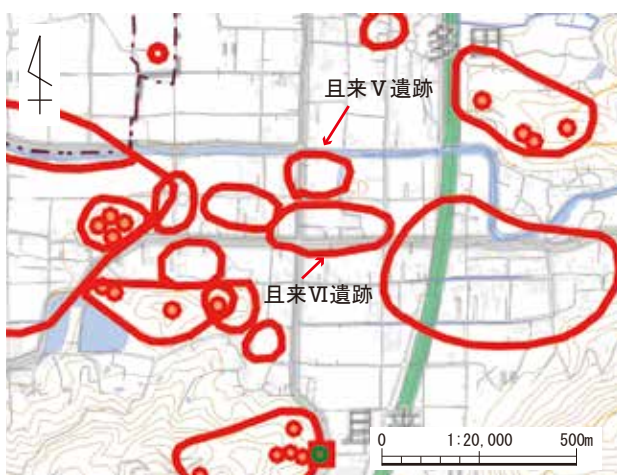
自然流路内木製遺物出土状況（北から）

且来V遺跡、且来VI遺跡の発掘調査等

遺跡の時代：弥生時代～江戸時代
 所在地：海南市且来
 調査の原因：秋月海南線道路改良事業
 調査期間：2022.05～2022.06
 整理期間：2022.04～2023.03
 調査コード：22-02・050、056ほか

はじめに

且来V遺跡及び且来VI遺跡は、海南市且来に所在する遺跡であり、遺跡北部を流れる亀の川によって形成された扇状地上に位置する。これまで既往の調査では、弥生時代の溝や古代の掘立柱建物群などが検出され、円面硯なども出土している。



且来V遺跡及び且来VI遺跡の位置図

調査の成果

調査は令和元年度、2年度に実施した調査区の東隣接地である既設側溝の取壊しに伴い実施した。調査面積は36.3㎡である。且来V遺跡の調査区は遺跡南端



且来VI遺跡発掘調査（記録保存）

部に位置し、令和元年度と同様に大規模整地跡を確認した。且来VI遺跡の調査区は遺跡北端部に位置し、令和2年度の調査と同様に調査区北半部を除いて弥生時代中期から古墳時代初頭、古代の遺構面を確認し、土坑や小穴、溝を検出した。出土遺物には弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦（近世）等がある。

出土遺物整理業務の内容

令和3年度に引き続き、令和元年から4年度の調査で出土した且来V遺跡及び且来VI遺跡の遺物整理業務を実施した。対象の出土遺物は、コンテナ(28ℓ/箱)41箱で、内容は、弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、瓦質土器、陶磁器、瓦、石製品、土製品等である。

整理作業として出土遺物の注記・登録、土器の接合・復元、遺物の実測、遺構・遺物実測図のデジタルトレースと挿図作成、遺物の写真撮影とその組版作業等の整理作業を行った。また、各遺構と出土遺物の写真を選出して写真図版を作成した後、原稿執筆、編集・校正等の作業を経て、令和5年3月に報告書を刊行した。



出土遺物整理業務（拓本）

遺構・遺物の評価

且来VI遺跡では方形周溝墓の溝を含む多数の遺構・遺物を確認したことにより、弥生時代中期以降の人々の活動痕跡が確認できた。ただし、集落構造等については周囲に展開する岡村遺跡や亀川遺跡と一体的に検討する必要がある。また、新たに古代の掘立柱建物跡を6棟確認した。且来V遺跡において古代瓦や円面硯が複数出土することなどを踏まえ、調査地周辺には郷衙といった古代の公的施設が存在していた可能性が高まった。

（濱崎 範子）

吉原遺跡、松原経塚の発掘調査

遺跡の時代：弥生時代～江戸時代
所在地：日高郡美浜町吉原
調査の原因：道路安全施設等整備事業
調査期間：2022.11～2023.04
調査コード：22-25・010、012

はじめに

吉原遺跡は、日高川河口右岸に形成された砂丘上に立地する弥生時代から江戸時代にかけての墓地である。これまでの調査で、弥生時代から古墳時代初頭にかけての方形周溝墓や土壙墓、古墳時代の土壙墓、古代から近世にかけての火葬墓などが検出されている。また、松原経塚は平安時代に埋納された経塚とされている。

調査の成果

調査では、弥生時代中期から古墳時代初頭にかけての方形周溝墓を7基（遺構004・007・011・015・023～025）・土坑、奈良時代の火葬墓などを検出した。方形周溝墓のうち、004方形周溝墓のみが弥生時代中期で、他の6基は弥生時代後期から古墳時代初頭頃に位置づけることができ、墳丘部に石積み（葺石）があった可能性が高い。

004方形周溝墓は、墳丘部が一辺6.2mで、周溝は幅1.2～1.6m、深さ0.15～0.35mである。埋土には10～20cmの礫が多く含まれる。弥生時代中期中頃の土器が出土し、県内の方形周溝墓のなかでは古い部類に位置づけられる。主体部は確認できなかった。



吉原遺跡の位置図

015方形周溝墓は改修により拡張されており、改修後の墳丘部は一辺8.9mで周溝は幅1.2～1.7m、深さ約0.3mである。西辺の中央には陸橋部が存在したことが窺える。また、改修以前の規模は、1辺が8.0mである。周溝内からは10～20cmの礫が多量に出土しており、これらの礫は墳丘側から落ち込んだ状態となっていた。遺物は検出時あるいは周溝内から、弥生時代終わり頃の土器片が出土している。主体部は確認できなかった。

023～025方形周溝墓は、015方形周溝墓の北側で重複するように位置する方形周溝墓で、1辺2.0～3.0mと小規模で、遺物は弥生時代終わり頃の土器が出土している。主体部は確認できていない。

019火葬墓は、縦横0.25m、深さ0.2mの小石室に須恵器の鉢・蓋を納めたもので、鉢内に骨灰を充填していた。

遺跡・遺構の評価

吉原遺跡では、既往の調査において南東側で周溝をもつ小規模な方形石積み遺構が検出されていることから、周辺に石積みを持つ方形周溝墓群が形成されていた可能性が高い。また、今回の調査区の北西側でも方形周溝墓が確認されているが、石積み（葺石）を持つ構造ではなく、直近する墓域で、違う造営母体が存在したことが窺える。

県内では、石積み（葺石）などの構造物をもつ方形周溝墓は確認されておらず、方形貼石墓が分布する近畿北部や山陰地方との関連も注目され、当地域の墓制や地域間交流を考えるうえで貴重な発見と言える。

(川崎 雅史)



015・023方形周溝墓（北西から）

東郷遺跡の発掘調査

遺跡の時代：中世
所在地：日高郡日高川町土生
調査の原因：江川小松原線通学路緊急対策事業
調査期間：2022.12～2023.04
調査コード：22-28・041

はじめに

東郷遺跡は弥生時代の集落跡とされる遺跡で、日高平野を流れる日高川の北岸にある低丘陵上に位置する遺跡である。遺跡の大半は御坊市に所在するが、北東部分は日高川町に位置している。昭和61年度には道路改良工事に伴い御坊市遺跡調査会が遺跡の中央部分の発掘調査を実施しており、弥生時代中期から古墳時代にかけての竪穴建物跡や溝などを検出し、弥生土器や土師器などの遺物が多数出土している。



東郷遺跡の位置図

調査の成果

調査は江川小松原線通学路緊急対策事業に伴い実施され、調査面積は372.0㎡である。調査区は遺跡の北東端に位置し、遺跡の周縁部にあたる。

調査区は南側調査区を1区、北側調査区を2区とし、道路の仮舗装工事のため作業を一時休止したが、令和4年12月5日から開始し、令和5年4月11日に現地調査を終了した。

調査では、遺構面から掘り込まれる溝や複数の土坑、小穴などを多数検出したが、いずれの遺構も出土遺物が極めて少ないため、詳細な時期については不明であ

る。ただし、遺構面の上層である包含層からは古代の須恵器や中世の瓦器椀や土師器皿の破片が出土することから、中世の遺構である可能性が高いと考える。



東郷遺跡2区全景（西から）

遺構・遺物の評価

東郷遺跡が所在する御坊市・日高川町周辺は、多くの遺跡が所在することでも広く知られる。弥生時代前期の環濠集落である堅田遺跡からは、古代の郡衙と推定される掘立柱建物群なども確認されているほか、東郷遺跡の西に位置するJR御坊駅の周辺には弥生時代中期から後期にかけての小松原Ⅰ遺跡、小松原Ⅱ遺跡、蛭田坪遺跡や高地性集落跡である亀山遺跡など数多くの遺跡が所在しており、古くから日高郡の中心地であったことが窺える。また、道成寺の東に位置する鐘巻地区をはじめ銅鐸が複数出土していることも注目される。古墳時代においても、道成寺北に位置する箱谷古墳群からは鉄製鍛冶具など渡来系文物が出土している。中世において周辺は、室町幕府の奉公衆である湯河氏の勢力下にあったと考えられ、本拠地とされる湯河氏館跡では、過去に実施された発掘調査で大型の堀や庭園跡が確認されており、多数の遺物からは同氏の繁栄を窺うことができる。

今回の発掘調査では、竪穴建物跡など集落に直接関わる遺構を検出することはできなかったものの、南北に延びる溝や複数の土坑など、東郷遺跡における中世の人々の活動痕跡を確認することができた。

(濱崎 範子)

尼寺観音寺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：室町時代
所在地：紀の川市貴志川町尼寺
調査の原因：中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備事業
整理期間：2022.07～2023.03
調査コード：21-10・009

はじめに

今回の調査で、中世から近代まで大規模な造成を行い、集落から耕作地へと改変した痕跡が確認できた。観音寺跡に関する基壇や遺構は確認できなかったが、布目痕や縄目痕のある、古代から中世の瓦類が遺物包含層から出土したことから、調査地周辺に古代寺院が展開していた可能性が高まった。同じく瓦器・土師器・中国製青磁等が出土し、古墳時代の甗や短頸壺も出土したことから古墳時代以降、中世以前の遺構がこの周辺に存在した可能性も出てきた。

業務の内容

遺物は遺物収納コンテナ(容量28ℓ/箱)11箱で、内容は土師器、瓦器、中国製青磁碗、須恵器、瓦類等である。遺物の注記・登録、土器の接合・復元作業、遺物実測、遺構・遺物実測図のトレース、遺物の写真撮影と組版等の整理作業を行なった。原稿執筆、編集・校正等を経て、令和5年3月に報告書を刊行した。

出土遺物については報告書に掲載した遺物及びその他の遺物に分けてコンテナに再収納して、和歌山県教育委員会に移管した。
(田之上 裕子)



遺物復元作業

入郷遺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：鎌倉時代～室町時代
所在地：伊都郡九度山町入郷
調査の原因：町道156・176号線改良工事
整理期間：2022.10～2023.03
調査コード：21-08・005

はじめに

入郷遺跡は、縄文時代のサヌカイト製石鏃等の散布地として知られていたが、新たに鎌倉時代から室町時代の集落関連遺構が展開することが確認された。調査区外にも掘立柱建物跡等の遺構が続くとみられることから遺構が展開する範囲は更に広がるものと思われる。

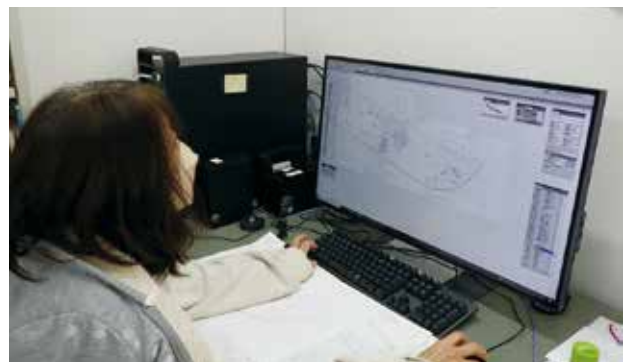
各遺構や遺物包含層から、複数の中国製青磁碗や白磁皿が出土したことにより、一般的な集落ではなく、高野山や慈尊院との関わりのある比較的身分の高い人々の集落であった可能性がある。

業務の内容

対象の出土遺物は、遺物収納コンテナ(28ℓ/箱)13箱で、内容は土師器、瓦器、中国製磁器、須恵器、石器、石製品等である。

出土遺物の注記・登録、土器の接合・復元作業、出土遺物の実測、遺構・遺物実測図のデジタルトレースと挿図作成、出土遺物の写真撮影とその組版等の整理作業を行なった。各遺構と出土遺物の写真を選出し写真図版を作成した。原稿執筆、編集・校正等の作業を経て、令和5年3月に報告書を刊行した。

(田之上 裕子)



遺構図のデジタルトレース作業

新堂遺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：弥生時代～江戸時代
所在地：有田市新堂
調査の原因：一般国道42号有田海南道路建設事業
支援期間：2022.08～2023.03
調査コード：21-18・007

はじめに

新堂遺跡は有田川河口近くの右岸の山裾に展開する遺跡である。令和3・4年度に道路建設事業に伴い、面積966.3㎡を対象に発掘調査を実施し、古代から中世にかけての柱穴・土坑・溝状遺構や近世の埋桶・土坑などを検出した。

業務の内容

対象の出土遺物は、遺物収納コンテナ（28ℓ/箱）16箱で、弥生土器のほか須恵器、土師器、瓦器、近世陶磁器、銭貨、茶臼、土錘などがある。本業務は、

これらの遺物及び現地調査記録等の整理業務である。

遺物洗浄は発掘調査に並行して応急整理で実施していた。遺物の注記・登録・接合・補強・復元を行った後、遺物実測図作成・トレース、遺構図のトレース等の整理作業を実施した。その後、遺物写真の撮影を行い、調査で撮影した遺構写真、遺物・遺構図のトレース図とともに組版を行った。また、遺物観察表を作成し、一連の作業を踏まえ原稿執筆と編集・校正を実施し、令和5年3月に報告書を刊行した。（川崎 雅史）



遺物復元作業

小浦Ⅰ遺跡・小浦Ⅱ遺跡の出土遺物等整理

遺跡の時代：弥生時代後期～古墳時代初頭
所在地：日高郡日高町小浦
調査の原因：中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業
業務期間：2022.06～2023.03
調査コード：21-26・005、047、059

はじめに

小浦Ⅰ遺跡、小浦Ⅱ遺跡は日高郡日高町小浦に所在し、小浦湾の砂堆及びその後背湿地上に位置する。小浦Ⅰ遺跡は奈良から鎌倉時代の、小浦Ⅱ遺跡は弥生時代の散布地として周知されている。

発掘調査は、中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴うもので、令和2年度に当センターによって実施され、弥生時代末から古墳時代初頭の土坑や自然流路が検出され、土器類や陶磁器等が出土した。

業務の内容

対象の出土遺物は、遺物収納コンテナ（28ℓ/箱）10箱で、内容は、弥生土器、土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、近世瓦、土製品（土錘）等である。

出土遺物の注記・登録、土器の接合・復元作業、遺物の実測、遺構・遺物実測図のデジタルトレースと挿図作成、遺物の写真撮影とその組版作業等の整理作業を実施した。各遺構と出土遺物の写真を選出し写真図版を作成し、原稿執筆、編集・校正等の作業を経て、令和5年3月に報告書を刊行した。（濱崎 範子）



遺物実測作業

岩橋千塚古墳群の分布調査及び出土遺物等整理支援

遺跡の名称：岩橋千塚古墳群
所在地：和歌山市寺内地内ほか
調査の原因：特別史跡の追加指定に係る調査
支援期間：2022.04～2023.03

はじめに

和歌山県教育委員会が実施する岩橋千塚古墳群追加指定事業に伴い、指定地外の内容を把握することを目的とした分布調査の支援を実施した。また、令和2・3年度に発掘調査された井辺1号墳及び寺内18号墳の出土遺物について整理作業の支援を実施した。

業務の内容

業務内容は、古墳分布調査、古墳カルテ作成、出土遺物等整理作業の支援である。

古墳分布調査は井辺・寺内・大日山地区の指定地外において実施し、約200基の古墳の清掃及び記録、写真撮影について支援を行った。また、今回の分布調査範囲内における既往調査歴のある古墳について古墳カルテを作成した。

整理作業の支援として、水洗・注記・登録・接合・補強・復元・遺物実測・遺構図のデジタルトレース作業について支援を行った。
(仲原 知之)



古墳分布調査（清掃作業）

県内遺跡発掘調査等事業に伴う確認調査等支援

遺跡の名称：①次ヶ谷遺跡、②岩橋千塚古墳群大日山地区、③半田遺跡、④慈尊院中小路地先遺跡
所在地：①海南市、②和歌山市、③日高郡みなべ町、④伊都郡九度山町
調査の原因：試掘確認調査
支援期間：2022.10～2023.03

はじめに

令和4年度に和歌山県教育委員会が実施する県内遺跡発掘調査等事業に伴い①次ヶ谷遺跡、②岩橋千塚古墳群大日山地区、③半田遺跡、④慈尊院中小路地先遺跡の試掘確認調査について支援業務実施した。

支援業務は、発掘作業員については約25人分、調査補助員については6人を雇用した。技術職員が延べ10日間従事し、賃金職員の雇用事務や管理、指揮等の作業を行った。

業務の内容

支援業務として、和歌山県内遺跡において、調査区の壁面清掃、遺物包含層の掘削、遺構面の精査及び遺構掘削などの人力掘削作業をおこなった。また、測量・実測業務として、確認トレンチの平面図及び土層断面図、検出した遺構の実測図作成、現場撮影や測量の補助等を実施した。
(濱崎 範子)



人力掘削作業（次ヶ谷遺跡）

那智山坊跡の確認調査等支援

遺跡の名称：那智山坊跡
所在地：東牟婁郡那智勝浦町那智山
調査の原因：青岸渡寺境内の行者堂建設
支援期間：2022.05

はじめに

宗教法人那智山青岸渡寺が実施する行者堂建設に先立って、那智勝浦町教育委員会が実施した確認調査の支援を3日間実施した。支援業務は、那智勝浦町教育委員会及び和歌山県教育委員会職員の指導の下、当文化財センターの技術職員が必要な人員（賃金職員）を確保し、業務を支援した。

業務の内容

発掘作業員は延べ4人日分を雇用して、確認調査に伴う人力掘削他の作業に従事した。また、調査補助員は1人日分を雇用して、測量・遺構実測図・土層断面

図の作成等に従事した。本業務の成果品として遺構等実測図原本、写真撮影データ、作業日誌等については、完了検査合格後、速やかに那智勝浦町へ提出した。

業務の成果

調査地内に設定した1m×5m規模の確認調査トレンチ3カ所について調査した。第2層上面で近世の整地土、第3・4層上面で中世の整地土や礎石、遺構、第5ないし6層上面が地山層上面であり、中世の礎石と遺構を確認した。
(田之上 裕子)



確認調査1区 第3層上面礎石検出状況（西から）

那智山坊跡の伐根等工事立会調査支援

遺跡の名称：那智山坊跡
所在地：東牟婁郡那智勝浦町那智山
調査の原因：青岸渡寺境内の行者堂建設
支援期間：2022.09～2022.11

はじめに

宗教法人那智山青岸渡寺の行者堂建設に伴い、那智勝浦町教育委員会が実施した、基礎工事に伴う立会調査と伐根工事に伴う立会調査の支援を、那智勝浦町教育委員会及び和歌山県教育委員会職員の指導の下、行った。

業務の内容

技術職員は延31日間、業務に従事した。現場作業として、人力掘削の実施、確認調査で検出された遺構及び土層断面等の図面作成、写真撮影等の技術支援及び、これに要する労務管理・指示を行い、写真撮影に

ついては35mmフルサイズ一眼レフデジタルカメラと三脚を用いて実施した。調査補助員は実測要員として24人日分を雇用した。

基礎工事に伴う立会調査では、基礎工事に伴う立会調査を1m四方規模の調査区8カ所において深さ1.0～1.5mまで実施した。伐根工事に伴う立会調査では、切株周辺を第6層上面（第2遺構面）まで機械掘削・人力掘削を行い、伐根を実施した。第4層上面（第1遺構面）で中世の遺構と礎石等、第6層上面で中世の石囲状遺構と礎石等を確認した。
(田之上 裕子)



基礎工事東3区 第2遺構面石囲い状遺構（東から）

土井ノ森城跡の出土遺物等整理支援

遺跡の名称：土井ノ森城跡
所在地：紀の川市中鞆渚
調査の原因：紀の川市鞆渚地区公共施設建設工事
支援期間：2022.06～2022.11
調査コード：20-07・035、21-07・035

はじめに

土井ノ森城跡は貴志川の支流である真国川の中流に位置し、公共施設建設に伴い令和2・3年度に発掘調査が実施された。調査では掘立柱建物跡2棟、溜池状遺構やそれに伴う石積遺構などが検出され、土師器、瓦器、輸入磁器などが出土した。掘立柱建物跡や土器の主要な時期は12～13世紀代のもので、紀伊国の著名な荘園の一つである「鞆渚荘」との関連が注目される。

本業務は、紀の川市が実施する土井ノ森城跡の出土遺物等整理作業の一部の作業工程を受託し支援するものである。

業務の内容

業務内容は、遺物収納コンテナ（28ℓ/箱）11箱の出土遺物を対象に注記・登録・接合・補強・復元・実測、遺物実測図のトレースのほか現場で作成した遺構図のトレースの支援である。また、実測遺物について出土遺物観察表の作成を行った。業務には、技術職員16日間従事し、整理補助員延べ34日と4/9日間、整理作業員延べ57日と1/9日間雇用した。

（川崎 雅史）



遺物実測作業

慈尊院近世堤防の出土遺物等整理支援

遺跡の名称：慈尊院Ⅱ遺跡、慈尊院中小路地先遺跡
所在地：伊都郡九度山町九度山、慈尊院
調査の原因：近世堤防総合調査
支援期間：2023.03

はじめに

国土交通省によって紀の川左岸にある九度山町の慈尊院地区堤防整備事業が計画され、その一部が慈尊院Ⅱ遺跡、慈尊院中小路地先遺跡の範囲内に該当した。このため、令和2年度に和歌山県教育委員会によって試掘調査や分布調査が行われ、石積護岸遺構、水制遺構、堤防遺構が確認された。堤防は遺存状態が良好で、文献史学とも対比が可能であり、当時の治水技術を解明するうえで重要遺構であると評価された。その後、令和3・4年度に継続して確認調査が実施され、その内容が徐々に明らかになっている。

業務の内容

和歌山県教育委員会が実施する慈尊院近世堤防総合調査に伴う出土遺物整理作業の一部の作業工程を受託し、支援業務を実施した。

業務内容は、令和3年度の調査で出土した遺物の実測・トレースと遺構実測図のデジタルトレースの支援である。業務には技術職員が4日間従事し、整理補助員を延べ16日間、整理作業員を延べ1日間雇用した。

（川崎 雅史）



遺構デジタルトレース作業

上城遺跡、上城城跡の出土遺物等整理支援

遺跡の名称：上城遺跡、上城城跡
所在地：日高郡みなべ町東吉田
調査の原因：宅地開発
支援期間：2023.01～2023.02

はじめに

上城遺跡、上城城跡は南部川左岸の丘陵上に位置し、上城遺跡は石器などが採集され縄文時代の遺跡として、上城城跡は戦国時代の城跡で、直近の平野部に位置する平地居館の高田土居城跡と関連する城跡として周知されている。

発掘調査は、宅地造成に伴うもので、令和2・3年度にみなべ町教育委員会によって実施され、古墳時代の中期の竪穴建物跡2棟、中世の掘立柱建物跡などが検出され、弥生土器、土師器、須恵器、青磁、陶磁器、石製品などが出土した。

業務の内容

みなべ町教育委員会が実施する出土遺物整理作業の一部について支援するもので、業務の内容は出土遺物の実測とトレース、実測した遺物の写真撮影である。

業務には技術職員が7日間従事し、整理補助員を延べ15日間、整理作業員を延べ3日間雇用した。

業務の成果

遺物には古墳時代前期の土師器が多く、検出した竪穴建物跡以前にも、集落が展開していた可能性がある。また、中世の遺物の中には、国内では希少な青磁も出土している。
(川崎 雅史)



遺物実測作業

安宅氏城館跡の出土遺物等整理支援

遺跡の名称：安宅氏城館跡
所在地：西牟婁郡白浜町安宅地内ほか
調査の原因：保存目的の確認調査
支援期間：2022.11～2023.03

はじめに

安宅氏城館跡は、紀伊半島南部を本拠とする水軍領主安宅氏の城館跡で、鎌倉時代から戦国時代の水軍領主の活動や領域支配の実態と紀伊半島の政治情勢を知ることができる希有な事例として令和2年3月10日に国史跡に指定された。

白浜町が実施した安宅氏城館跡の発掘調査のうち、安宅氏居館跡、中山城跡、要害山城跡の出土遺物について整理業務の一部の作業工程を受託し、支援業務を実施した。

業務の内容

整理作業の支援として、注記・登録・遺物実測・トレース作業を実施した。

注記及び登録作業は遺物収納コンテナ（容量28ℓ/箱）にして17箱の土器類を対象に実施し、登録写真を撮影後、遺物登録台帳を作成した。

また、指定された土器類20点について実測し、一部は拓本も実施した。作成した遺物実測図は1/2に縮尺してパソコン画面上でデジタルトレースを実施した。実測遺物については観察表を作成した。

(仲原 知之)



遺物実測作業

高野町内石造文化財の調査支援

文化財名称：高野町内石造文化財
所在地：伊都郡高野町高野山
概要：石造文化財所在調査
支援期間：2023.02～2023.03

はじめに

高野町が実施する文化財保存活用地域計画の策定に必要な石造文化財調査における、現地調査の実施、石造文化財所在位置図作成及び石造文化財台帳作成業務の支援を実施した。

業務の内容

高野山内の丘陵以外の部分のうち施設や住居等の敷地内、寺院の山門内を除いた地域を対象として令和5年3月に4日間にわたって石造文化財の所在把握を目的とした踏査を実施した。

時代の新旧を問わず石造文化財の所在を確認した場合は、所在場所・寸法の計測・銘文の判読・時期の把握・写真撮影等の記録作業を行った。これらの記録は、5000分の1の地形図に石造文化財の位置をプロットした図面を作成するとともに、石造文化財台帳として石造文化財の一覧表の作成を行ない、成果品をデジタルデータで高野町教育委員会へ納入した。なお、今回の調査においては、143箇所、579点の石造文化財が確認された。
(高橋 智也)



調査風景

道成寺境内保存活用計画策定の部分支援

文化財名称：史跡 道成寺境内
所在地：日高郡日高川町鐘巻
概要：保存活用計画策定支援
支援期間：2022.08～2023.03

はじめに

史跡道成寺境内は、中世から近世の伽藍が顕在化し、多くの建造物や仏像が存在している一方で、発掘調査によって創建当時の古代の伽藍配置が明らかになっている等、各時代における構成要素が混在している。これらの把握や史跡の価値の再確認を行い、今後の適切な管理活用及び整備を行うために、宗教法人道成寺が令和4～6年度の予定で保存活用計画の策定を実施することとなった。本業務は、支援業務を受託した株式会社都市景観設計より歴史や文化財に関する項目の素案検討等の業務委託を受けて実施した。

業務の内容

業務は、史跡指定範囲及びその周辺を対象として、保存活用計画素案のうち史跡及び周辺の概要を作成することを目的とした。史跡周辺の文化財を把握するために現地踏査を行ったうえで、保存活用計画の素案の作成を行った。その素案については、令和4年12月16日及び令和5年2月27日に実施された史跡道成寺境内保存活用計画策定委員会において、検討が行われた。なお、この検討委員会には、事前打合せへの参加及び運営補助を行った。
(高橋 智也)



史跡 道成寺境内

重要文化財 鬪雞神社本殿ほか3棟 の保存修理

建築年代：江戸時代前期～中期

所在地：田辺市東陽

事業の種類：本殿(本社)・上殿(若殿) 半解体修理、
西殿(西御前)・八百萬殿(満山社) 部分修理

事業期間：2020.06～2022.12

田辺市にある鬪雞神社は、千六百年の歴史を有する神社で、仮庵山の南麓に北面して東西一列に社殿6棟が並び建つ姿は、平安時代後期に熊野三所権現を勧請した熊野坐神社(現・本宮大社)が大斎原にあった頃の様相を今に伝えている。近世まで「新熊野権現社」や「鶏合権現社」「鶏合宮」「鬪雞宮」などと呼ばれ、明治初年の神仏分離により現在の社名となった。

現在の社殿群は、室町時代と天正年間に荒廃した後に、紀州藩付家老・安藤家のもと再建された。今回の事業は令和2年度からの3カ年事業として、寛文元年(1661)再建の本殿、万治元年(1658)再建の上殿の2棟で半解体修理を、元文2年(1737)再建の西殿と延享5年(1748)再建の八百萬殿で部分修理を行う計画で実施してきた。当事業においてセンターは、工事の技術指導業務を担当した。

3カ年度目の本年度は、木工事を完了した本殿と上殿で、前年度終盤に取り掛かった塗装・彩色・金具などの施工を進め、梅雨入り前に概ね完了させた後、両殿を丸2年間覆っていた素屋根を解体し、コロナ渦で規模縮小ながら3年ぶり開催となった7月後半の田辺祭時には施工直後の社殿外観を現すことになった。祭典後には、本殿前で部分解体していた幣殿の復旧作業

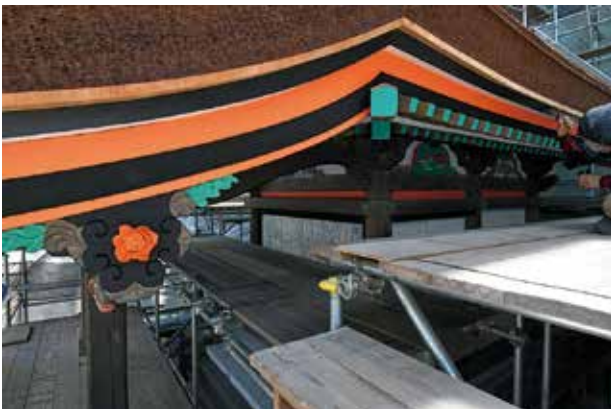


写真1 本殿軒先の塗装・彩色施工の様子(西面)



写真2 竣工した上殿を北側から見上げる

や神域内での防蟻対策などを行って9月に工事完了、10月には竣工奉告祭が催行された。今回の事業によって本殿と上殿に江戸時代後期頃の塗装・彩色が再現されたことで、江戸時代中期に整った現社殿群の様相もより当時のすがたに近付いた結果となり、その施工に関われたことは感慨深い。(下津 健太郎)



(「波に亀」)

(仮庵山から見て「右近の橘」)



(仮庵山から見て「左近の梅」) (「源頼政の鶴退治」)

写真3,4 本殿西面(上)と上殿東面(下)の墓股彫刻

重要文化財 増田家住宅表門の保存修理

建築年代：正徳2年(1712)
所在地：岩出市曾屋
事業の種類：部分修理・耐震診断・耐震補強工事
事業期間：2021.11～2023.03

建物の概要

紀ノ川と紀伊山脈に挟まれた岩出市の曾屋地区は、かつては十分な用水を確保できず、稲作が出来ない土地であった。紀州藩が元禄年間に紀の川市藤崎に築造した堰から用水を曳くことで新田開発が行われ、正徳年間に増田家の現在の屋敷構えが整えられている。

今回修理事業を実施した表門は、主屋とあわせて重要文化財に指定されている幅30mに及ぶ壮大な長屋門で、正面側にはナマコ壁が施され、現在も手前に広がる水田とあわせ、往時の景観を保っている。

事業の概要

昭和61年に根本的な修理が行われ、表門の木部や屋根に目立った破損等は認められなかったが、随所でナマコ壁の漆喰の崩落が目立ってきていたため、12ヶ月の工期で左官工事を実施することとなった。また工事に伴い建物の耐震診断を実施した結果、大地震時に建物が大きく破損する可能性が指摘されたため、工期を16ヶ月に延長し、耐震補強工事を実施した。

左官工事は、耐震補強工事の振動による影響を受けることが懸念されたため、瓦材の調整までで施工を一旦休止し、南面の補強材取り付けが完了してから漆喰塗りの作業を実施した。在来材料、工法を原則としたが、漆喰や瓦を安定させるための補強材も補足した。



①漆喰塗りの施工状況

表門は門部分以外に天井が無く、野地も竹木舞であり、水平剛性の不足が指摘された。このため、耐震壁を追加するなどの補強案が提案されたが、表門各部屋の固有の空間性が損なわれることは看過できない、と所有者からの明確な指摘があり、桁の高さで鉄骨補強材を水平に設置する方針が検討された。しかし、これも天井が張られず、勾配のついた野地がそのままあられとなる空間の特徴が分断されるとの意見が出たため、野地に沿って補強材と取り付けの方針とした。

構造担当者も、補強による構造的な性能を丁寧に検証することで、補強材を取り付ける箇所が必要最低限で済ませられるよう繰り返し調整をおこなった。



②野地に沿って取り付け鉄骨補強材

重要文化財に指定されている建物は、本来の建物の構造なども含めた歴史的価値を認めるため、建築基準法の適用除外となっている。しかし実際に人が住まい、表門においては正面の里道を不特定多数の人が通行する、といったことも考慮すると、耐震性能を厳密に検証し、必要な耐震補強を実施していくことも、歴史的な建造物を末永く後世に伝えていくために不可欠な作業の一つである。
(多井 忠嗣)



③竣工(南面全景)

重要文化財 白岩丹生神社本殿 の保存修理

建築年代：永禄3年(1560)
所在地：有田郡有田川町小川
事業の種類：屋根葺替、部分修理
事業期間：2022.11～2023.10

建物の概要

本殿の建立年代と思われる棟札が二つあり、確証はないが、装飾細部が桃山風の特徴を持つこと、永禄3年(1560)の棟札などから、その頃に建立されたと推察される。

建立後の修理については、元和9年(1623)、寛文7年(1667)、宝永4年(1707)、寛保元年(1741)、延享2年(1745)、寛延2年(1749)、明和8年(1771)、寛政2年(1790)、文化5年(1808)、天保11年(1840)が棟札によって確認でき、その内容からほぼ40年周期で屋根葺替修理が行われていることがわかる。また、明治初年に塗装洗い落としを行い、拝殿が建築された明治40年に本殿の位置を後退させているが、詳細は不明であるがその際にも何らかの修理が行われている。

その後、昭和30年(1955)6月22日に重要文化財に指定され、昭和34年(1959)に国庫補助事業による解体修理、平成元年に屋根葺替を行っている。

保存修理の内容

今回の事業では、主に本殿の屋根葺替と木部補修を令和4年度から2ヶ年にわたり実施する。当事業においては、工事の技術指導業務を担当している。

本年度は、仮設工事にて素屋根組立を行った。周囲が岩壁に囲まれており、作業域の確保が困難な状況であったが、足元調整を行いながら組立を進めた。



写真1 素屋根の組立状況



写真2 修理前本殿全景 (南西からみる)

木工事では、箱棟分解の際に破損状況を確定して木材の調達を進めた。また、並行して腐朽の著しい身舎背面丸柱や縁束の継木補修に取り掛かった。

屋根工事では、旧檜皮解体を行ったところ、軒先部分の野小舞に腐朽を確認した。西側面破損部で応急的に鉄板が被せてあった箇所や、東西軒先で樹木が芽吹いていた部分の破損が顕著であった。よって軒先部分の野小舞取替を進めるとともに、軒積で雨漏りを来していた箇所で、破損が確認された切裏甲の取替を行う。

そのほか本殿は、軒裏から縁廻りにかけて、木部の表面に藻類が繁茂している。特に明治期に塗装が洗い落とされた素木部分での藻類発生が目立ち、事業内で藻類清掃、防カビ処理を施す予定であり、現在は薬剤を使った試験施工の経過観察実験を行いつつ手法について検討を進めている。

今後の予定

次年度は引き続き、木工事の木部補修を進め、屋根工事で腐朽した軒積取替や檜皮屋根の葺き上げ、飾り金具の補修と新調、藻類清掃・防カビ処理、周辺環境整備などの事業を実施し、令和5年10月末の事業完了を目指す。 (大給 友樹)



写真3 旧檜皮葺き解体状況

県指定文化財 須賀神社本殿の保存修理

建築年代：江戸時代（享保4～6年）
所在地：日高郡みなべ町西本庄
事業の種類：屋根葺替修理、塗装修理、部分修理、
自火報設備
事業期間：2021.04～2023.03

みなべ町（旧・南部川村）西本庄の須賀神社では、令和3年度からの2カ年計画で県指定文化財の本殿3棟の屋根葺替・塗装修理を実施してきた。初年度は第一殿と第二殿の工事を進め、本年度はその塗装・金具工事の仕上げと素屋根の解体を皮切りに、第三殿の修理工事と神域内の自動火災報知設備工事をを行った。設備工事は、事業着手時の熱感知式での計画から、国の指針に準じて炎感知式での計画に改めて実施した。

今回の修理では、塗装面は明治後期の施工に準じた補修とし、昭和戦前期に銅板包みとされた棟廻りも大正期以前の様相（黒色塗装）に近付けた。

（下津 健太朗）



写真3 修理前の第三殿（軒下の塗装・彩色、金具解体時）



写真4 修理後の第三殿（単色塗は塗替え、彩色部は補彩）



写真1 修理後の第一殿（手前）・第二殿（素屋根解体中）



写真5 第三殿（手前）修理後の社殿全景（西から見る）



写真2 修理前の第三殿（素屋根内南東から屋根面を見る）



写真6 本殿後方での自火報設備設置状況（東から見る）

県指定文化財 施無畏寺鎮守社の保存修理

建築年代：江戸時代中期
所在地：有田郡湯浅町栖原
事業の種類：屋根葺替、部分修理
事業期間：2022.05～2023.03

建物の概要

施無畏寺は、真言宗御室派の寺院で明恵上人ゆかりの寺として知られ、湯浅町の西北部の白上峰の麓、湯浅湾や苅藻島を一望できる地に寺地を占める。平安時代後期当地に勢力を張っていた湯浅宗重の孫景基が、いとこの明恵の修行地に寺を建て、寄進した。寛喜3年（1231）落慶法要が行われた。寺は湯浅氏一門の団結をはかる要としての機能を持っていたものと思われる。寺地を安堵するため湯浅党47人が連署した「藤原景基定置状」が伝えられている。寺は16世紀後半兵火により伽藍は焼失、江戸時代前期から中期にかけて再建された。このとき再建された本堂、開山堂、鐘楼、鎮守社の4棟が県指定の文化財である。

鎮守社は春日明神と住吉明神を祀る覆屋に納められた小規模な春日造社殿である。軒唐破風をつけて正面を飾り、正面頭貫は虹梁形として鴨居との間に彫刻を入れて、ここでも正面を飾っている。身舎頭貫木鼻に雲紋を彫り、手挟は籠彫とするなど、軒廻りや彫刻に手の込んだ仕事が見られる。建築年代は江戸時代中期とされる。

保存修理の概要

鎮守社は覆屋に納められていたため、檜皮屋根の状態は今まで気にされていなかったが、近年身舎の軒付けが落下するなど破損が見られるようになってきた。鎮守社の檜皮葺は、軒付け檜皮内に収まる押縁が和釘



唐破風箱棟の破損状況



竣工した施無畏寺鎮守社

で留まっていることから、明治時代以降葺き替えが行われていないと考えられる。檜皮屋根の葺き替えが必要となった時、瓦葺きの覆屋が建てられたと考えられる（覆屋の建てられた年代については不詳）。

覆屋は鎮守社の大棟箱棟を撤去して屋根面に密着するように建てられており、葺き替え作業が出来ない状態であった。そのため覆屋を揚家して仮支持し、腐朽している土台の取り替え、葺き替え作業の出来る所定の高さでの柱の取り替えを行った。覆屋の揚屋完了後、屋根工事用の軒足場を建設し、檜皮屋根の葺き替え工事と箱棟の復旧及び軒廻り・軸部・縁廻りの脱落・欠損・緩みのある部分の補修等の木工事、飾り金具の補修と新調の金具工事を行った。

檜皮屋根は、明治期以前のものであったため、その保存を試みたが、身舎の平葺きの欠失、軒付け積みの崩落、向拝の平葺きの大きな劣化などによりやむなく全面葺き替えることとした。

工事中に判明した本堂の蟻害による背面縁及び外陣床の修理も計画変更の承認を得て実施した。

(寺本 就一)



大棟の箱棟完成

史跡 旧名手宿本陣整備事業 名手役所主屋及び離れ・蔵復旧整備 その3工事

建築年代：主屋 江戸時代後期
離れ・蔵 江戸時代後期
所在地：紀の川市名手市場
事業の種類：復旧整備
事業期間：2021.04～2023.03

事業の概要

本整備事業は令和元年度より復旧工事に着手し、離れ・蔵から復旧を開始し、令和2年度で離れ・蔵の組立作業を完了した。令和3年度は主屋の復旧作業を進め、木部の繕い補修や組立作業を実施し、壁面には壁下地に荒壁パネル、構造用合板を用いて必要な耐震性を確保した。

今年度は、主屋において屋根工事の瓦屋根葺き上げ、基礎工事の土間叩きと左官工事の壁仕上げ、建具の補修と製作を完了し建て込みを行ったほか、電気配線や自動火災報知設備の設置などを施工した。

保存修理の内容

屋根工事では、解体時に保管していた瓦を可能な限り再利用した。補足瓦は、再用瓦の特徴に留意して製作し、市担当者とともに生型検査で文様や形状が踏襲されているか確認した。主屋でも屋根荷重軽減のため、空葺工法で瓦を葺き上げた。

基礎工事の土間叩きについて、中古に撤去された主屋南面軒下と東棟土間の施工を行った。北土間の施工はカマド跡の表示手法に検討を重ねていたが、整備検討委員会で協議を行い、発掘調査の際、確認されていた一口カマドと推定される炭化痕跡の範囲で土色を変えて、見学者への位置表示とすることになった。



写真1 西棟施工完了状況



写真2 西棟八畳の施工完了状況

左官工事は、昨年度から施工していた壁下地に中塗り仕上げ、床の間周辺に大津壁を施した。その際には、解体時写真で軒桁部分の面戸が、藁を束ねたものを入れ土で固める仕様となっていたこと等を確認し、解体前の仕様を再現することにも努めた。

建具工事では、建具の補修と新調を進めた。解体から長期間保管されていた敷居、鴨居に変形がみられたため、建て込み作業への支障が懸念されたが、軸組や敷鴨居等の現寸を確認し、新調した建具で調整した結果、可動に問題なく建て込みを完了できた。

そのほか、主屋及び離れ・蔵にて自動火災報知設備の取り付けと電気配線を行った。感知器は黒色のものを指定し、建物全体の調和を図った。コンセント位置についても活用される際の利便性を市担当者と協議しつつ、建物の雰囲気や損なわないよう配慮した。

最後に製作を進めていた畳を敷き込み、3月末で全ての工事を完了した。

本事業で復旧整備したことにより、解体から25年以上を経て在りし日の姿が蘇った。復旧整備した建物が隣接する妹背家住宅と同様に、地域に親しまれ、大いに活用されることを望む。
(大給 友樹)



写真3 東棟施工完了状況

史跡 旧名手宿本陣土堀、井戸屋形 重要文化財南倉の保存修理

建築年代：土堀、井戸屋形、南倉：江戸時代
所在地：紀の川市名手市場
事業の種類：部分修理、構造補強
事業期間：2022.09～2023.03

事業の概要

史跡の構成物の土堀及び井戸屋形、重要文化財である南倉の左官補修に伴い、補修範囲の特定や工法について技術指導を行った。また、紀の川市の工事発注書類作成等も支援した。
(大給 友樹)



写真1 土堀の施工状況(東面全景を南東からみる)



写真2 井戸屋形の補強状況(西面)



写真3 南倉の左官補修状況(北面破風まわり)

重要文化財 金剛峯寺奥院経蔵 の保存修理

建築年代：慶長4年(1599)
所在地：伊都郡高野町高野山
事業の種類：屋根葺替、塗装修理、部分修理
事業期間：2020.06～2022.12

建物の概要

高野山奥之院の御廟の東隣に所在する経蔵は、桃山時代に石田三成によって造営された建物である。三間四方檜皮葺きの簡素な建物であるが、内部に回転式の八角形平面の輪蔵が組み込まれ、経典を置く棚のほか、軒や組物、彫刻などが精緻に配されている。また、内壁には仏画が、そして輪蔵には極彩色の彩色が施されており、建立当初の彩色が色褪せることなく良好な状態で残されている。

事業の概要

令和2年度から2か年度の予定で着手した修理事業は、当初檜皮葺屋根の葺き替えと、仏画部分を中心とした彩色の部分的な剥落止めを実施する計画であったが、施工に伴い状況を精査した結果、輪蔵全体で彩色の剥離やカビの発生が進んでいることが確認されたため、工期を9ヶ月延長し、建物内部に作業足場を仮設して彩色の清浄と剥落止め、カビ対策を講じ、令和4年12月に事業が完了した。

解体修理が行われた昭和53年にも彩色の剥落止めが施工されており、その際用いられた合成樹脂の劣化等も確認されたため、東京文化財研究所の専門家の指導を受けて必要な除去作業を施した結果、桃山期の描線や色を鮮やかに復することが出来た。(多井 忠嗣)



カビ除去で鮮やかな色を取り戻した木鼻彫刻(海馬)

重要文化財 金剛三昧院経蔵 の保存修理

建築年代：鎌倉時代(貞応頃)
所在地：伊都郡高野町高野山
事業の種類：屋根葺替、部分修理
事業期間：2022.02～2022.09

建物の概要

北条政子の建立で知られる金剛三昧院には、国宝に指定されている多宝塔(貞応2年：1223)と経蔵の鎌倉時代の建物が二棟残り、往時の荘厳さを伝えている。

経蔵は県下では数少ない校倉の形式で、二間四方、寄棟造檜皮屋根となっており、正倉院などとは異なって、各面の校木が同じ高さに納まる特徴を有する。

事業の概要

周囲を巨樹で囲われていることなどから、屋根の劣化が顕著となっていたため、檜皮屋根を葺き替え、併せて基壇石積み、土間たたきの補修も行った。

檜皮屋根は、上下方向の筋状に垂下し、深い窪みが発生していたが、檜皮屋根を解体した結果、檜皮材自体の腐朽は進んでいなかったものの、下地の木舞板が腐朽したために野垂木の間で垂下し、その窪みから水が漏れ落ちていたことが判明した。このため、杉材が用いられていた木舞板の取り替えにあたり、文化庁の承認を得た上で、より腐朽に強い榎材を用いることで、屋根をより長期間健全に保全できるよう配慮した。

また、今回の修理あわせて経蔵内部の収蔵品の調査が行われた結果、経蔵の修理棟札のほか隣接する客殿(重要文化財)の建立棟札が発見され、寛永元年(1624)の建立が確定した。(多井 忠嗣)



竣工正側面(北東面)

重要文化財 普賢院四脚門の保存修理

建築年代：江戸時代(寛永頃)
所在地：伊都郡高野町高野山
事業の種類：屋根葺替、部分修理
事業期間：2022.04～2023.03

建物の概要

金剛峯寺の東隣に位置する普賢院の四脚門は、かつて高野山内に造営された東照宮の遺構と伝えられる装飾的な建物である。檜皮屋根の四脚門平唐門で、墓股に精緻な彫刻が施される他、全面に華麗な彩色が施されている。

明治期に東照宮から普賢院に移築された後、平成7年の解体修理時に現位置に再移築されている。

事業の概要

前回修理から30年近くが経過し、檜皮屋根の表面や軒先の劣化が目立ってきたため、屋根の葺き替えを中心とした補修を実施した。

高野山は湿度が高く、積雪もあることから檜皮屋根の修理サイクルが他所より短い傾向があるが、四脚門は周囲より高く築かれた石垣の南端に立ち、採光や通風等も確保出来る環境に位置するため、軒積みのほか、箱棟や野地等の木部にも目立った腐朽は発生していなかった。しかし正面東側には隣接して桜の木が植えられており、その枝が屋根の上を覆っていた部分においては、檜皮材の劣化が周囲よりも進んでいたことが確認されたため、工事の足場の建設にともない、所有者が整枝を行うなど、事業にあわせて歴史的建造物を維持していくための環境が整えられた。(多井 忠嗣)



竣工背面(北面)

県指定文化財 常喜院校倉の保存修理

建築年代：江戸時代（寛永頃）
所在地：伊都郡高野町高野山
事業の種類：部分修理、塗装修理
事業期間：2022.11～2023.03

建物の概要

常喜院の校倉は、かつて高野山内に造営された東照宮の遺構と伝えられる。三間四方の校倉造で、宝形の銅板屋根がかかる。金剛三昧院校倉と同様に、正背面と側面の校木が同高に納まる。また、台輪上には平三斗と間斗束が配されて纏縹彩色が施され、軒や校木も弁柄で塗装されるなど、装飾的な建物となっている。

明治期に現位置に移築された際、大壁漆喰塗りの位牌堂を内包する覆屋のような構成に整えられている。

事業の概要

正面の土台中央部の腐朽が進み、校木の垂下が顕著となっており、棧唐戸の開閉も困難な状況となっていた。また塗装の劣化が進み、校木部分にはカビも発生していたほか、内部の漆喰壁の剥落なども散見されていた。大規模な修理が必要との見解もあったが、事前に十分な破損調査、修理計画を行い、正面校木をジャッキアップした上で、腐朽した土台のみを抜き取り、新材に取り替える、と必要最低限の解体範囲での施工を行った。このほか台輪より下の塗装の塗り替え、漆喰壁の補修も併せて実施した。

土台の修理には、幅450mm、厚さ210mm、長さ4mと長大な檜材が必要であったが、地元産の良材を確保でき、適切な施工が実施出来た。（多井 忠嗣）



土台補足材の組み立て状況

県指定文化財 東田中神社境内社 旧竹房神社本殿の保存修理

建築年代：桃山時代
所在地：紀の川市打田
事業の種類：屋根葺替、塗装修理
事業期間：2022.09～2023.08

事業の概要

この付近は中世の田中荘で、荘中に地主神が八社あり、田中の八社と呼ばれてきたが、昭和大戦後、東西2カ所に集めて、それぞれ東田中神社及び西田中神社と名付けられた。今回、修理を行う東田中神社境内社旧竹房神社本殿は元々、約3キロメートル南の紀ノ川に臨む台地上の竹房にあり、元来は竹房、黒土、赤尾の産土神であったのが移築されたものである。

事業は令和4年度から2か年計画で、屋根葺替・塗装を中心とした保存修理工事を行う。

本年度は仮設工事で素屋根を組み立て、屋根工事に旧檜皮葺きの解体と屋根野地の補修を行い、檜皮葺きの調達と拵えを進めた。また並行して箱棟の木部修理に取り掛かっている。前回（平成元年）に屋根葺替していることもあり、野地は想定内の破損状況であった。杉材が用いられた呼び込み板においても腐朽が確認されなかった。箱棟については、勝男木上面のボルト留め部分から雨水が入り込み、腐朽の原因となっていることが分かった。そのため勝男木の取替を行い、留め穴に銅板を被せ、水の侵入を防ぐ処置を行う。

次年度は、主に檜皮屋根葺き上げ、縁廻りの塗装修事、飾り金具の補修等を実施する予定である。

（大給 友樹）



写真1 旧檜皮葺き解体状況

和歌公園観海閣新築工事の実施設計

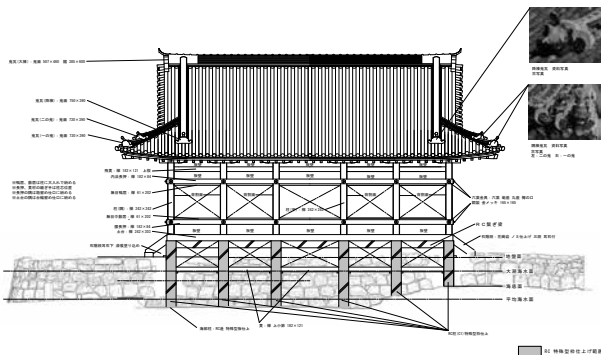
建築年代：新築
所在地：和歌山市和歌浦中
事業の種類：実施設計
事業期間：2022.01～2023.03

事業の概要

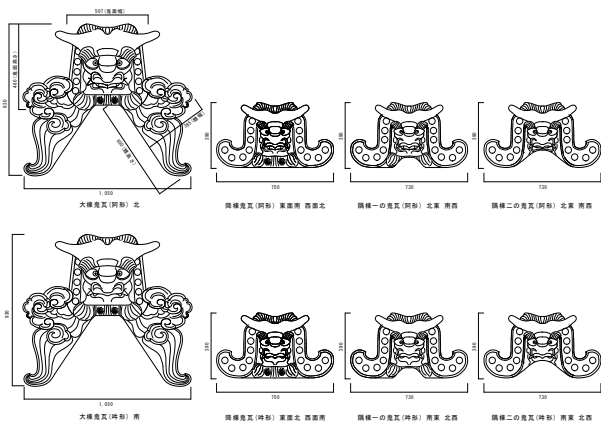
令和3年度に実施した基本設計に引き続き、和歌浦の妹背山に観海閣を整備する事業の実施設計を行った。

観海閣は、徳川頼宣によって妹背山の東端に海に張り出す形で建てられた解放的な眺望施設で、江戸時代から広く一般の市民に開放されていた建物である。

今回、和歌山県による公園施設として、慶應3年に再建され、第2室戸台風で倒壊するまで広く市民や観光客に親しまれた二代目の木造建物を再現する形での新築工事の実施設計を担当した。建築基準法など現行法規に則るため、石造だった海部の柱を景観に配慮しつつコンクリート造で調整するなど、構造計算適合判定などへも対応し、完了した。（多井 忠嗣）



東立面図



古材や古写真により再現した鬼瓦詳細図

史跡 熊野参詣道紀伊路史跡等総合活用整備事業技術支援 鈴木屋敷の復元整備

建築年代：江戸時代後期
所在地：海南市藤白
事業の種類：復元整備
事業期間：2018.04～2023.03

建物および事業の概要

海南市にある「鈴木屋敷」は、「鈴木」という姓の発祥の地とされる。藤白の鈴木氏が、平安時代の終わり頃に熊野から藤白の地に移り住み、ここを拠点として、全国に熊野信仰をひろめたとされる。鈴木屋敷のある藤白神社境内は、熊野参詣道（藤白王子跡）として史跡指定されており、藤白王子跡は熊野古道九十九王子のうち格式のある五体王子の一つである。鈴木屋敷は座敷棟・玄関棟などからなる建物と池泉庭園、前庭から構成されている。座敷部は江戸時代後期に建てられたもので、池泉庭園は室町時代末頃に造られたと考えられている。

藤白神社と鈴木屋敷復元の会では、倒壊の危機にあった建物の修理及び庭園の整備、活用に伴う屋敷地全体の整備を計画し、コンサルタント会社によって平成30年度から史跡の整備基本計画の策定、令和2年度実施設計が行われた。令和3年度に工事着手、令和5年3月に竣工した。その間、当センターは整備基本計画策定検討委員会に指導機関として出席、建物の復原調査に協力・助言、工事施工において技術指導や助言などを行った。（寺本 就一）



竣工した鈴木屋敷

中世行幸啓御泊所跡の保存活用整備 (尊勝院表門の保存修理工事)

建築年代：江戸時代
所在地：東牟婁郡那智勝浦町那智山
事業の種類：屋根葺替修理、部分修理
事業期間：2021.11～2022.06

建物と事業の概要

那智山青岸渡寺の境内にある尊勝院は、かつて飛瀧権現（那智の滝）を管理していた那智山執行職が代々住した僧坊と伝えられ、皇族の熊野参詣時には御泊所も兼ねられた。尊勝院の境内は昭和33年に和歌山県の史跡に指定されている。

本事業では、境内南側に建つ表門の保存修理工事を実施した。工事は前年度の檜皮屋根葺替と軒・野地等の木部修理に続き、本年度は箱棟の復旧、素屋根の解体の後、軒内土間の補修、棧唐戸の建付調整を行い、精算事務を経て事業を完了した。（下津 健太郎）



本堂付近より表門を俯瞰する



竣工後の表門（棧唐戸閉鎖時のすがたを南から見る）

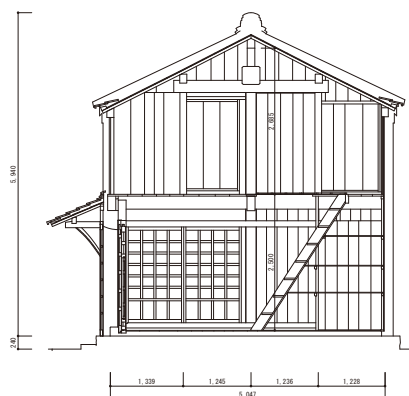
指定文化財図面作成業務

所在地：和歌山県内
事業の種類：図面作成
事業期間：2022.12～2023.03

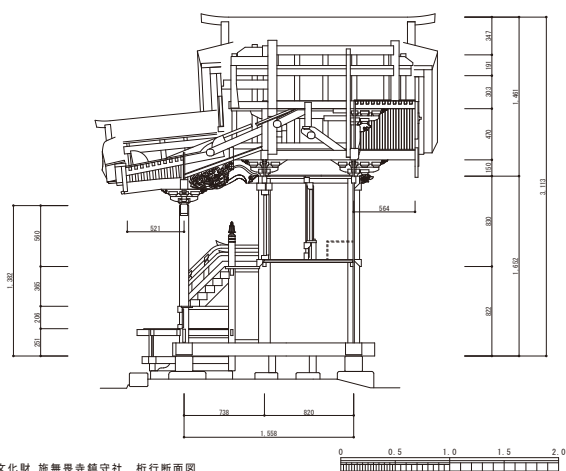
事業の概要

前年度と同様に、基本図面の無い国指定重要文化財、県指定文化財の建造物について、県が作成する文化財総合データベースに登載する為の図面を現地調査で実測したうえで、製図する業務を行った。

主な図面作成現場として、今年度は重要文化財の濱口家住宅新蔵・文庫の近代建築や県指定文化財須賀神社、施無畏寺などを中心に各図を作成した。



重要文化財 濱口家住宅新蔵 梁間断面図



県指定文化財 施無畏寺鎮守社 桁行断面図

山口斌氏収集の日高郡北部における考古資料について（1）

1. はじめに

和歌山県中部に位置する日高郡北部（日高町、日高川町、美浜町、由良町）には様々な遺跡が存在することが知られているが、これまで発掘調査が実施されたものはごくわずかであり、また過去の調査成果が報告されていないものも存在する。特に由良町、日高町はその傾向が顕著にみられる。

一方で、発掘調査で得られた資料以外に地域で収集された様々な考古資料が存在する。これらは地域の歴史を知るうえで貴重な資料である。

今回は日高郡由良町に在住する山口斌氏がこれまで収集してきた考古資料について、限られた紙面ではあるが、その一部について紹介したい。

2. 収集者の経歴と資料の紹介

山口斌氏（昭和8年生まれ）は由良町在住の郷土史家である。長年教員として地域の学校教育に尽力するかたわら、同町の教育長や由良町文化財審議委員会委員等を歴任してきた。また『由良町誌』の編纂に携わりつつ、地域の遺跡を訪ね、収集した考古資料を写真や実測図等で記録されてきた。

筆者は山口氏とともに由良町内の文化財を訪ねるなど以前より交流があり、令和4年度に日高郡日高町小浦に所在する小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡の発掘調査で出土した遺物の整理業務に携わった際に、山口氏から業務の参考になればと、収集した資料を一部借り受けることができた。

今回紹介する資料はその際に借り受けたもので、「町内各遺跡出土遺物実測図」「実測図（町外）」及び写真がまとめられたスクラップブック2冊で（写真1）、いずれも昭和40～60年代に収集されたものである。写真資料については、由良町内外の埋蔵文化財以外にも古文書や仏像の写真資料等が収録されている。一方で「町内各遺跡出土遺物実測図」には由良町内の遺跡である衣奈遺跡、黒島遺跡、十九遺跡、大引遺跡、阿戸遺跡、三宅谷遺跡、里Ⅰ遺跡及び里Ⅱ遺跡（収集資料には「横浜遺跡」と記載）で、「実測図（町外）」に



写真1 山口斌氏作成資料

は美浜町三尾遺跡、日高町阿尾遺跡で表採したものとみられる遺物のスケッチや実測図が収録されている。

この「町外実測図」の中には「S48.10 出土 方杭 個人宅より出土」と記載された製塩土器とみられる土器の実測図19点（イロハ順）が収録されている。方杭は日高町北部に位置する字名であり、小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡が所在する小浦区の北に位置する。「埋蔵文化財地名表」によると周囲には埋蔵文化財については記載がない（図1）。

収録された実測図は脚台式製塩土器のⅠ～Ⅳ型とみられる（図2）。実測図には内外面の調整や色調、焼成について細かな記載があるが、縮尺については不明である。また、写真資料が収録されているスクラップブックには方杭出土の遺物に関する写真は収録されていない。今回資料を紹介するにあたり、山口氏に資料を収集した経緯について聞き取りを行った。氏によると、昭和48年10月ごろ、日高町方杭に所在する個人宅の増築（新築か？）に伴い、住民が基礎設置のため敷地内を掘削したところ今回実測図を収録した土器類を発見したという。その後住民が山口氏に連絡し、連絡を受けた山口氏が出土した土器類を借り受け、実測図を作成した後発見者に返却したという。その後、発見された土器類がどうなったのかについては山口氏も確認できていないとのことである。出土した土器類は実測したものの以外にも破片を含め相当数あったという。



図1 日高町北部の主な遺跡と方杭地区の位置

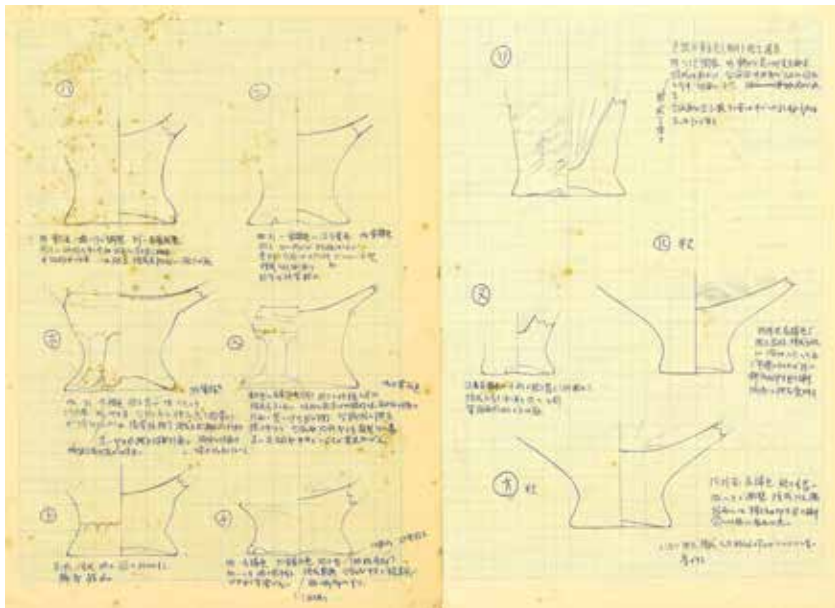


図2 日高町方杭から出土した製塩土器の実測図
(縮尺任意)

3. 収集資料の今後

筆者が確認した山口氏収集資料の中には、遺物の写真や実測図以外にも、由良町内の遺跡発見の契機となった遺物の出土を報じた新聞記事など、その内容は多岐にわたる。しかし、氏の収集資料にかぎらず発掘調査で出土した遺物と異なり、地域住民が表採した資料について、これまで調査や報告が十分になされているとは言い難い状況にある。これらの資料も地域の歴史を考える上で欠かすことのでき

ない資料であることは間違いない。

今回紹介した日高町方杭で出土した土器類がその後どうなったのかも含め、山口氏の収集した資料を再整理し、経緯と詳細をまとめて今後報告したいと考えている。

(濱崎 範子)

令和4年度の普及活動

○センター全体に関する普及活動

・「文化財センター情報誌 風車」発刊

今年度は例年と異なり、情報誌を通常版の99号と記念拡大版の100号の年2回発刊した。99号として、「特集：藤崎弁天 弁天堂の保存修理」、100号記念号として、当文化財センターの思い出や印象深い事業、過去と現在、未来の保護と当文化財センターの役割について、歴代の理事長へのインタビュー記事等の記念特集と「特集：須賀神社本殿の保存修理工事」を刊行した。

・「和歌山県文化財センター研究紀要」発刊

和歌山県内における文化財に関する調査研究活動等の成果を広く公表する場を提供することで、県民に県内の文化財の学術的評価を周知し、文化財の保存活用に寄与するとともに関係職員等の学术交流、資質向上を図ることを目的として、研究紀要を令和5年3月に刊行した。当センターとしては初めての研究紀要となる。

研究紀要には、論文2編、研究ノート2編、資料紹介1編、調査技術紹介1編を掲載した。

○埋蔵文化財に関する普及事業

・和歌山県内文化財調査成果展

「紀州のあゆみ」

・和歌山県内文化財調査報告会

「地宝のひびき」

・現地説明会・現地公開

「入郷遺跡発掘調査」

「和田岩坪遺跡（第2次）発掘調査」

「吉原遺跡、松原経塚発掘調査」

・関西考古学の日関連ミニ展示「考古学ペーパークラフトコレクション（関西編）」

・文化財担当者専門研修フィードバック報告会

和歌山県内文化財調査成果展「紀州のあゆみ」

近年に県内で実施された埋蔵文化財関係の調査成果を県民などに公開することを目的に開催した。期間は令和5年1月28日（土）から3月5日（日）で、田辺市立歴史民俗資料館にて、県内の文化財調査や修理事

業について、その成果を公開するための出土遺物と写真パネルの展示会を行った。来館者は239名であった。

展示対象は、岩橋千塚古墳群寺内18号墳（和歌山市）、且来V遺跡・且来VI遺跡（海南市）、尼寺観音寺跡（紀の川市）、入郷遺跡（伊都郡九度山町）、新堂遺跡（有田市）、小浦I遺跡・小浦II遺跡（日高郡日高町）、鬮雞神社（田辺市）、里野中山城跡（西牟婁郡すさみ町）の8ヶ所である。



紀州のあゆみ・地宝のひびきのチラシ



紀州のあゆみ 展示風景（寺内18号墳）

和歌山県内文化財調査報告会「地宝のひびき」

「紀州のあゆみ」展示期間中の令和5年2月26日（日）に、田辺市文化交流センターたなべる大会議室にて「地宝のひびき—和歌山県内文化財調査報告会2022—」を開催した。県内の発掘調査の成果や文化

財の修理保存事業によって得られた成果をいち早く県民に提供するため、県内の文化財担当者が調査等の内容について報告した。参加者数は24名であった。

発表内容は、「入郷遺跡の発掘調査―中国製磁器の出土する中世集落跡の調査―」田之上裕子(当文化財センター)、「岩橋千塚古墳群 寺内18号墳―発掘された前方後円墳の埴輪列と土器埋納遺構―」瀬谷今日子氏(和歌山県教育委員会)、「小浦Ⅰ遺跡及び小浦Ⅱ遺跡の発掘調査―製塩土器と土錘を中心に―」濱崎範子(当文化財センター)、「社殿にみる神社創建と熊野信仰について―闘雞神社の建造物修理―」下津健太郎(当文化財センター)の4本である。誌上報告として3本の報告を加えた報告資料集を刊行して参加者に配布した。



入郷遺跡現地説明会



地宝のひびき 開催風景



和田岩坪遺跡現地説明会

現地説明会・現地公開

遺跡の発掘調査を広く一般の方々に周知するため、発掘調査現場で現地説明会を開催した。

各現場の発掘調査担当者による遺跡の解説を行い、地元の方を中心に参加者を得ることができた。現地説明会を開催した遺跡と開催日及び参加者は、以下の通りである。

- ・入郷遺跡 令和4年4月16日 参加者42名
- ・和田岩坪遺跡 令和4年9月3日 参加者56名
- ・吉原遺跡、松原経塚 令和4年12月17日 参加者30人



吉原遺跡、松原経塚現地説明会

関西考古学の日関連ミニ展示「考古学ペーパークラフトコレクション(関西編)」

通常とは別の角度から考古学に触れていただくことを目的に遺構・遺物をモデルとしたペーパークラフトの展示を行った。併せて、そのモデルとなった遺跡・遺物についてパネルにより紹介を行い、展示内容を掲載したリーフレットの作成を行った。

この展示は「関西考古学の日 2022」の連動企画として、当文化財センター事務局棟において、令和4年9月1日から11月30日まで開催し、約120名の来場者にお越しいただいた。



考古学ペーパークラフトコレクション（関西編）展示状況

・文化財担当者専門研修フィードバック報告会

令和4年11月24日（木）に、県内文化財担当職員等を対象に文化財担当者専門研修の受講成果をフィードバックすることを目的とした報告会を開催した。

令和元年9月17日～20日に受講した「奈良文化財研究所 埋蔵文化財担当者専門研修 堆積・地質学基礎課程」について田之上裕子（当文化財センター）が報告した。

また、研修で得たことについて、基礎的なことを中心にまとめて報告し、土層断面剥ぎ取り資料の画像を基に観察会をグループワークとして実施した。



フィードバック報告会 開催風景

○文化財建造物に関する普及事業

文化財建造物の保存修理現場では、所有者・地元の教育委員会が開催する現場見学会等に協力し、建物や工事の内容について解説を行った。建造物修理について関係者や近隣住民の理解を深め、次世代につなぐ契機となるように配慮した。



増田家住宅での研修対応（令和4年度養成教育）

文化財に関わる研修事業に協力し、和歌山県内における工事の内容や建物の特徴について解説を行った。ヘリテージマネージャースキルアップ講習会（和歌山県建築士会開催）や県内の地域文化に関する講座に講師を派遣するなど、文化財建造物保存修理事業に伴う調査成果に基づいた知見を広く県民に還元した。



金剛三昧院での研修対応（令和4年度養成教育）

(公財)和歌山県文化財センター 令和4(2022)年度 概要

I 受託業務

埋蔵文化財発掘調査等受託業務	5件
埋蔵文化財出土遺物等整理受託業務	5件
埋蔵文化財確認調査支援等受託業務	4件
埋蔵文化財遺物整理支援等受託業務	4件
文化財保存活用計画支援受託業務	2件
文化財建造物保存修理技術指導業務等	20件

II 理事会・調査委員会・会議など

理事会・評議員会

理事会	04.06.08	和歌山県立博物館
評議員会	04.06.28	和歌山県立博物館
理事会	04.11.29	和歌山県立近代美術館
理事会	05.03.28	アバローム紀の国

調査指導

吉原遺跡、松原経塚発掘調査で検出した遺構に関する評価について (吉原遺跡、松原経塚発掘調査業務)	04.12.12	森岡秀人(奈良県立橿原考古学研究所 共同研究員) 於：吉原遺跡、松原経塚発掘調査現地
---	----------	---

埋蔵文化財関係会議

令和4年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会第1回役員会	04.05.12	オンライン開催
第43回全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	04.06.16～17	群馬県高崎市
令和4年度第1回(第65回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック主催者会議	04.07.07	公益財団法人大阪府文化財センター
令和4年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	04.11.01～02	長野県長野市
第36回令和4年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック事務担当者会議	04.12.06	八尾市文化会館
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック会議研修会	05.01.28	京都市淀会館
令和4年度第2回(第66回)全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック主催者会議	05.02.19	八尾市文化会館
令和4年度全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロック会議	05.02.24	大阪歴史博物館
全国埋蔵文化財法人連絡協議会 近畿ブロックコンピュータ等研究委員会	05.03.27	書面報告

文化財建造物関係会議

令和4年度文化財建造物保存事業幹部技術者研修会	04.04.15	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
令和4年度文化財建造物保存事業主任技術者研修会	04.10.18-19	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会
令和4年度文化財建造物修理主任技術者講習会(上級コース)	04.11.24-12.02	主催：(公財)文化財建造物保存技術協会

委員委嘱

川崎 雅史	御坊市文化財保護審議会委員	04.04.01-05.03.31	御坊市教育委員会	04.04.01 付依頼
川崎 雅史	みなべ町文化財保護審議会委員	04.04.01-05.03.31	みなべ町教育委員会	04.04.01 付依頼
高橋 智也	土木学会選奨土木遺産関西支部推薦委員会 調査部会委員	04.05.21-05.05.31	公益社団法人土木学会関西支部	04.05.21 付依頼
多井 忠嗣	史跡熊野参詣道保存活用計画策定委員会委員	04.04.01-05.03.31	田辺市教育委員会	04.04.01 付依頼
多井 忠嗣	海南市文化財保護審議会委員	04.06.01-05.03.31	海南市教育委員会	03.05.14 付依頼
多井 忠嗣	国指定史跡金剛峯寺境内(奥院地区)大名墓総合調査研究会委員	04.07.01-05.03.31	高野町教育委員会	04.07.01 付依頼

III 講師派遣・執筆など

埋蔵文化財課関係

濱崎 範子	「近年の御坊市周辺における発掘調査成果について」講師 御坊市文化財研究会 令和4年度文化財講座例会	04.06.11	於：御坊市中央公民館
濱崎 範子	「椒古墳を含む周辺の文化財と歴史」講師 広川町耐久生涯大学	04.09.10	於：オレンジロード山頂 周辺
高橋 智也	「和歌山・根来寺遺跡」『木簡研究』第44号	04.11.25	発行

川崎 雅史	「和歌山・和歌山城跡」『木簡研究』第44号	04.11.25	発行
高橋 智也	「オスマン帝国フリゲート艦・エルトゥールル号の遭難事件～史跡・水中遺跡・国際交流の観点から～」 （『水中遺跡シンポジウム 水底のヒストリア』 主催：文化庁）発表	05.02.05	於：日経ホール

文化財建造物課関係

寺本 就一	「熊野参詣道紀伊路（藤白王子跡）第1回整備検討委員会」オブザーバー	04.06.27	於：藤白神社儀式殿
多井 忠嗣	「令和4年度ヘリテージマネージャー養成講習会」講師	04.09.17	於：建築士会館
多井 忠嗣・大給 友樹	「令和4年度文化財建造物保存事業技術者養成教育第7回」 研修対応	04.10.06-07	於：増田家住宅 金剛三昧院、金剛峯寺他
下津 健太郎	「本殿・上殿の彫刻に込められた意図について」特別講演	04.10.08	於：鬮雞神社
多井 忠嗣	「藤崎弁天」紀の川市歴史民俗資料館企画展 見学解説	04.12.03	於：藤崎弁天
下津 健太郎	「令和4年度ヘリテージマネージャー養成講習会」講師	05.02.18	於：須賀神社
多井 忠嗣	「濱口梧陵と廣八幡宮一法蔵寺・養源寺・安楽寺の文化財とともに」 特別展図録	04.10.15	発行
下津 健太郎	「和歌山県指定文化財須賀神社本殿一神社の歴史と事業の紹介」 『文建協通信 150号』	05.01	発行

IV 刊行図書・出版物等

年報・紀要

『公益財団法人和歌山県文化財センター年報 2021』	05.06.03	発行
『和歌山県文化財センター紀要 創刊号』	05.03	発行

埋蔵文化財課関係

調査報告書

「尼寺観音寺跡一県営中山間総合整備事業尼寺地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書一」	05.03.10	発行
「且来Ⅴ遺跡・且来Ⅵ遺跡一秋月海南線道路改良事業に伴う発掘調査報告書一」	05.03.10	発行
「新堂遺跡一一般国道有田海南道路建設事業に伴う発掘調査報告書一」	05.03.10	発行
「小浦Ⅰ遺跡・小浦Ⅱ遺跡一県営中山間総合整備事業小浦地区ほ場整備事業に伴う発掘調査報告書一」	05.03.10	発行
「入郷遺跡一町道 156・176号線改良工事に伴う発掘調査報告書一」	05.03.15	発行

現地説明会・現地公開資料

「入郷遺跡 現地説明会資料」	04.04.16	発行
「和田岩坪遺跡（第2次）発掘調査 現地説明会資料」	04.09.03	発行
「吉原遺跡、松原経塚発掘調査 現地説明会資料」	04.12.17	発行

報告会・シンポジウム資料等

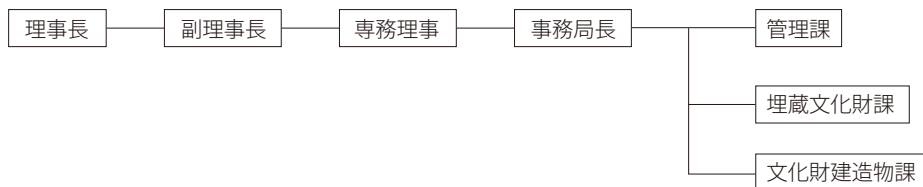
『考古学ペーパークラフトコレクション 関西編』展示リーフレット	04.09.01	発行
『和歌山県内蔵文化財調査成果展 紀州のあゆみ』展示解説リーフレット	05.01.28	発行
『地宝のひびき一和歌山県内文化財調査報告会 2022一』資料集	05.02.26	発行

『風車』紀州の歴史と文化の風 文化財センター季刊情報誌『かざぐるま』

風車 99 2022 夏号 特集「藤崎弁天 弁天堂の保存修理」	04.08.31	発行
風車 100 100号記念特集「歴代理事長に聞く」・特集「須賀神社本殿の保存修理工事」	05.03.31	発行

V 組織

組織図



役員（理事）

理事長	櫻井 敏雄	元近畿大学 教授
副理事長	宮崎 泉	和歌山県教育委員会 教育長
専務理事	井口 好晴	前和歌山県人事委員会 事務局長
理事	逸木 盛俊	宗教法人粉河寺 代表役員
理事	小野 健吉	大阪観光大学 特任教授
理事	工塚 善通	大阪府立狭山池博物館 名誉館長
理事	中村 浩道	和歌山県立紀伊風土記の丘 館長
理事	中村 貞史	元大阪経済大学 非常勤講師
理事	林 宏	元一般社団法人和歌山県文化財研究会 会長

役員（監事）

監事	風神 正典	税理士法人・風神会計事務所 代表社員・税理士
監事	栗生 好人	和歌山県教育庁生涯学習局 局長

評議員

井藤 徹	日本民家集落博物館 館長
小野 俊成	宗教法人道成寺 代表役員
垣本 和男	和歌山県教育庁 文化遺産課長
佐々木公平	宗教法人広八幡神社 代表役員
竹中 康彦	和歌山県立博物館 副館長
千森 督子	和歌山信愛大学 教授
西山 耕司	和歌山県立紀伊風土記の丘 副館長
日向 進	京都工芸繊維大学 名誉教授
和田 晴吾	兵庫県立考古博物館 館長

職員

事務局 長 平林 照浩（管理課長事務取扱）

管理課
課長 補佐 松尾 克人
主査 出口 由香子
副主査 井阪 さゆり

埋蔵文化財課
課長 高橋 智也
主任 仲原 知之
副主査 川崎 雅史
技師 田之上 裕子
技師 濱崎 範子

文化財建造物課
課長 多井 忠嗣
主査 下津 健太郎
副主査 寺本 就一
副主査 大給 友樹

表紙図案

表紙右上 且来VI遺跡出土須恵器
表紙下 須賀神社 第三殿 正面図

公益財団法人
和歌山県文化財センター年報
2022

2023年5月26日

【発行】

公益財団法人 和歌山県文化財センター

〒640-8301 和歌山市岩橋 1263 番地の1
TEL 073-472-3710
FAX 073-424-2270

<http://www.wabunse.or.jp/>
E-Mail: kanri-2@wabunse.or.jp

【印刷】

白光印刷株式会社

(公財) 和歌山県文化財センター
<http://www.wabunse.or.jp>